

論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称	博 士 （ 教育学 ）	氏名	濱 本 想 子												
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2項該当														
<p>論 文 題 目</p> <p>保健体育科教員養成課程学生の教師の知識の発達に関する基礎的研究 —リフレクションに表出する「体育の授業における知識」に着目して—</p>															
<p>論文審査担当者</p> <table border="0"> <tr> <td>主 査</td> <td>教 授</td> <td>齊 藤 一 彦</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>上 田 毅</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>教 授</td> <td>草 原 和 博</td> </tr> <tr> <td>審査委員</td> <td>准教授</td> <td>岩 田 昌太郎</td> </tr> </table>				主 査	教 授	齊 藤 一 彦	審査委員	教 授	上 田 毅	審査委員	教 授	草 原 和 博	審査委員	准教授	岩 田 昌太郎
主 査	教 授	齊 藤 一 彦													
審査委員	教 授	上 田 毅													
審査委員	教 授	草 原 和 博													
審査委員	准教授	岩 田 昌太郎													
<p>〔論文審査の要旨〕</p> <p>本論文は、保健体育科教員養成課程に焦点を当て、学生が体育の授業実践を通してどのような教師の知識を獲得し、どのように発達させるのか、その過程について事例的に明らかにすることで、保健体育科教員養成の改善に向けた示唆を得ることを目的とした。</p> <p>本論文は、第1章から第6章までの6つの章で構成されている。とりわけ、本論文では国立大学法人X大学教育学部（以下、X大学教育学部と明記）の保健体育科教員養成課程を対象とした。</p> <p>第1章では、関連する先行研究を整理することで、本論文で取り組むべき課題を明らかにした。そして、授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」を分析の対象とし、その特徴と発達について演繹的に分析するための枠組みを作成した。</p> <p>第2章では、教員養成の中核をなす教育実習に着目し、2015年度入学生（8名）を対象として、2017年度にX大学附属Y中学校で実施された教育実習（3年次）での授業実践に対するリフレクションに表出する「体育の授業における知識」を演繹的に分析した。そして、その特徴及び発達について考察し、授業実践の経験や指導教員及び他の教育実習生とのリフレクションを通して徐々に複雑な知識が表出するようになることを明らかにした。加えて、第1章で作成した分析の枠組みの妥当性も検証している。</p> <p>第3章から第5章にかけては、2017年度入学生（6名）を対象に2つの授業実践場面でのリフレクションに表出する「体育の授業における知識」に関する縦断的な調査を実施した。</p> <p>第3章では、2018年度に実施された模擬授業場面（2年次）を対象に調査を行った。その結果、模擬授業場面でのリフレクションには教授方法に関する知識の表出が多く、その獲得を自覚する学生が多くいた一方、生徒に関する知識の表出は少なく、その獲得が課題であることが示唆された。</p> <p>第4章では、2019年度にX大学附属Y中学校で実施された教育実習場面（3年次）を対象に調査を実施した。そして、教材内容や生徒に関する知識の表出が多く、その獲得を自覚する学生も多いという結果が示された。一方、教材内容、教授方法、生徒に関する知識が統合したような、最も複雑な知識の獲得には課題があることを明らかにした。</p>															

第5章では、第3章と第4章の結果を踏まえ、模擬授業場面から教育実習場面にかけていかに「体育の授業における知識」が発達するか、その過程について考察した。そして、学生は模擬授業場面や教育実習場面での授業実践及びリフレクションの経験を蓄積することで、徐々に獲得した教材内容、教授方法、生徒に関する単一的な知識を統合させ、複合的な知識へと発達させていると推察された。特に、模擬授業場面では教材内容と教授方法に関する知識の統合が促されやすいこと、教育実習場面では教材内容と生徒に関する知識の統合が促されやすいこと、そして、教育実習場面での授業実践及び観察の経験を通して徐々に教授方法と生徒に関する知識の統合や教材内容、教授方法、生徒に関する知識の統合が促されるといった順序性があることが示唆された。また、学生の「体育の授業における知識」の発達には、自己の授業実践のみならず、他者の授業実践の観察や協議会での課題に即した振り返りなど、他者とのコミュニティの中での学びが効果的であることを述べた。

第6章では、総括としてこれまでの結果を踏まえ、学生の「体育の授業における知識」を発達させるために保健体育科教員養成がどのように改善されるべきか考察がなされた。そして、保健体育科教員養成を通して学生がより複雑な知識を獲得できるよう、教科教育及び教科専門の講義場面、模擬授業場面、教育実習場面、教職実践演習場面で単一的な知識や複合的な知識の獲得を促すような指導の工夫や獲得された知識の確認及び評価の必要性が示された。今後の課題として、調査対象を拡大して研究を蓄積し、知識の質や量を評価する基準の作成や、各大学の実態や保健体育科教員養成の成果及び課題の調査を通してより具体的、かつ一般的な知識の発達を促す手立てや保健体育科教員養成の改善の視点及び方策を考究していく必要性を述べた。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 教師の知識という視点から、学生の成長について縦断的な調査を通して実証的に解明し、保健体育科教員養成の成果と課題について具体的に検証できたこと。
2. 保健体育科教員養成における学生の知識の発達過程を解明したことで、その特徴に即した保健体育科教員養成の具体的な改善の視点を提起できたこと。
3. 帰納的な分析が行われてきた教師の知識研究の文脈において、これまでの知見を踏まえた演繹的な分析を行ったことで、学生が獲得した知識の特徴や発達について数量的な結果を示すことができたこと。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和3年2月12日